



## PRESS RELEASE

AUN/SEED-Net c/o Ms. Rungchai Punninda  
Faculty of Engineering, Bldg. 2, Room 109-110  
Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand 10330  
Tel: (66) 2218 6419-21 Fax: (66) 2218 6418  
E-mail: [info@aun-seed.net](mailto:info@aun-seed.net) Website: [www.seed-net.org](http://www.seed-net.org)



2009年11月6日、ベトナムのハノイホライズンホテルにおいて、AUN/SEED-NETプロジェクト第16回の運営委員会/2009年度年次総会が開催されました。同会議には、ASEANの19加盟大学、国内支援大学、JICA本部、ASEAN大学ネットワークの代表者等、総勢57名の参加者が集い、オープニングセレモニーでは、元ハノイ工科大学の総長で、本年10月までベトナム国科学技術省の副大臣トラン タン博士、教育訓練省のニュエン ホン副局長が列席されました。

同会議では、2008年3月のフェーズ2開始以来、プロジェクト活動は、当初計画どおり順調に進捗しており、アセアン諸国の開発に資する高等教育人材ネットワークが強化されるのみならず、共通の課題に対する研究協力や、各分野での研究ジャーナル誌の発刊に向けての準備が行われていることが報告されました。また、2010年9月には、プロジェクト期間5年間の折り返し地点を向かえ、JICA本部から、中間評価調査団が派遣されることが伝えられました。最後に、SEED/NET事務局から、2013年3月のフェーズ2終了後、これまでJICAプロジェクトで築き上げてきたAUN/SEED-NETを、どのようにして発展させていくか、アイデアが披露され、各メンバー大学に議論の深化が促されました。各議題の概要は、以下の通りです。

- 2008年度の活動報告；一部、定員が充足されていないプログラムがあるものの、順調に実績を積んでいることが報告されました。学位取得プログラム（修士課程52名、PhDサンドイッチ15名、本邦博士18名、PHDシンガポール7名、共同研究124件、地域会議13件（参加者1,397名、研究発表数668件）、ネットワーキング、共同研究支援プログラム（日本人教員派遣90名、



# PRESS RELEASE

AUN/SEED-Net c/o Ms. Rungchalai Punninda  
Faculty of Engineering, Bldg. 2, Room 109-110  
Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand 10330  
Tel: (66) 2218 6419-21 Fax: (66) 2218 6418  
E-mail: [info@aun-seed.net](mailto:info@aun-seed.net) Website: [www.seed-net.org](http://www.seed-net.org)

本邦短期研修 13 件、域内教官派遣 5 件、短期域内派遣 2 件、修了生研究支援 7 件、オープンハウス 6 件)

- モニタリング活動；モニタリング訪問 10 回、その他、モニタリング報告書、メールベースでのモニタリングが実施されました。修士課程、本邦博士課程については、3 年間の期間内に 7～8 割の学生が卒業するが、一方で、SW 博士の 8 割が、当初期間内に卒業出来ていない点、また、SW 博士では、アドバイザー/コ・アドバイザーとのコミュニケーション不足が指摘されて、SEED-NET 事務局からは、モニタリング委員を各メンバー大学で設立し、学生のモニタリングの強化が働きかけられました。
- 2009 年コーディネータ会議；本年 5 月に開催された、コーディネータ会議の内容（Upgrade PHD や修士課程から博士課程へのダイレクト PHD システムの検討、AI（SEED-NET 準加盟校の導入）が報告されました。また、AUN/SEED-NET ジャーナルの発刊についての意見交換が行われました。
- 国内支援委員会；国内支援委員会の委員長である、東京工業大学三木千尋教授から、SW 博士の本邦研修期間を充実させるため、国内支援大学との事前調整の重要性や密接な連携が提案され、SW 博士の応募勧奨が働きかけられました。また、フェーズ 2 から新たに対象となった、横断的課題に対し、メンバー大学と国内支援大学の積極的な連携が提案されました。
- 2009 年度上半期活動報告及び 2010 年度の活動計画；2009 年度上半期は、学位取得プログラム（修士課程 45 名、PhD サンドイッチ 18 名、本邦博士 18 名、PHD シンガポール 3 名、共同研究 94 件、地域会議 4 件）、ネットワーキング、共同研究支援プログラム（日本人教員派遣 30 名、本邦短期研修 7 件、短期域内派遣 19 件、修了生研究支援 20 件）及び 2010 年度の各プログラムの募集予定と定員枠、及び地域会議の予定が伝えられました。
- Affiliated Institution (AI;SEED-NET 準加盟校)；SEED-NET 事務局から、AI 加盟に関する条件提示を行った後、各国のメンバー大学から、推薦加盟校の説明を行った。今後、各候補大学が、AI の基準を満たしているかを、JICA 本部（＝国内支援大学メンバー）とも協議の上、慎重に対応していくことが伝えられました。

国名	候補大学	推薦校
カンボジア	Mean Chey University	ITC
インドネシア	Institut Teknologi Sepuluh Nopember Surabaya	ITB & UGM
ラオス	Champasack University and Souphanouvong University	NUOL
マレーシア	Universiti Teknikal Malaysia Melaka	UM
ミャンマー	Mandalay Technological University and West Yangon Technological University etc.	YTU & UY
フィリピン	Mindanao State University Iligan	UP & DLSU

- 中間評価；JICA 本部から、来年 9 月に予定している中間評価調査について、今後のスケジュールと、各メンバー大学への協力を依頼しました。また、2013 年 3 月のフェーズ 2 終了後、JICA が協力を継続する場合、必要な要請のプロセスとスケジュールが説明されました。
- AUN/SEED-NET フェーズ 2 終了後の方向性；SEED-NET 事務局から、「SEED-NET20 年計画」として、将来は、ASEAN-日本のパートナーシッププログラムのもと、ASEAN の共通の課題を研究するための研究、教育機関を目指すべきだとの問いかけを行いました。参列者からは、人材育成は、プロジェクト 2 期 10 年という短い期間で完結することは困難であるため、これまで継続して構築したネットワークを更に発展させるべきだとの意見が出され、今後、中間評価調査団派遣に向けて、議論を深化していくことが提案されました。